

## 眼科

### 1. スタッフ (2020年4月1日現在)

科 長 (教 授) 川島 秀俊  
 副 科 長 (学内准教授) 牧野 伸二  
 外来医長 (准 教授) 井上 裕治  
 病棟医長 (助 教) 坂本 晋一  
 医 員 (准 教授) 高橋 秀徳  
 医 員 (講 師) 新井 悠介  
 助 教 渡辺 芽里  
 助 教 佐野 一矢  
 病院助教 伊野田 悟  
 病院助教 高橋 良太  
 シニアレジデント 12名

渡辺 芽里  
 佐野 一矢  
 坂本 晋一  
 伊野 田悟  
 高橋 良太

### 2. 診療科の特徴

当院では、大学病院という3次医療機関であるため、地域の医療施設と密接に連携体制をとり、急性期の治療を中心に診療を行っている。特に、専門外来（角膜、緑内障、ぶどう膜炎、網膜・硝子体、黄斑、ロービジョン、弱視・斜視）を充実すべくスタッフ一同、常に最新の高度医療の導入に努力している。

診断面では、通常的眼科診療に必要な機器を完備しており、さらに光干渉断層計 (OCT)、ICG眼底撮影 (HRA II)、広角眼底撮影装置、前眼部三次元画像解析装置、等々最新の診断機器を備えている。

治療面では、中央手術室に眼科専用手術室を2室設け、それぞれに最新の超音波水晶体乳化吸引術装置 (インフィニティ)、硝子体手術装置 (コンステレーション) を設置し対応している。また、加齢黄斑変性に対しては抗VEGF療法を積極的に行っている。

当院では、電子カルテシステムが導入されている。眼科においては、さらに眼科サブシステムを用いて、画像データや手術スケジュールの管理、各種病態の説明に使用しており、効率がよく、医療安全の面からも有益なシステムを構築している。

#### ・認定施設

日本眼科学会専門医制度認定施設  
 日本眼科学会専門医制度研修プログラム施行施設

#### ・専門医

日本眼科学会専門医認定医  
 川島 秀俊  
 牧野 伸二  
 井上 裕治  
 高橋 秀徳  
 新井 悠介

### 3. 診療実績・クリニカルインディケータ

#### 1) 新来患者数・再来患者数・紹介率

新来患者数	2,219人
再来患者数	34,678人
紹介率	92.3%

#### 2) 入院患者数 (病名別)

病 名	人数
白内障	1,083
緑内障、高眼圧症	258
網膜剥離	206
網膜前膜	152
糖尿病網膜症	121
硝子体出血	86
黄斑円孔	59
増殖性硝子体網膜症	48
角膜疾患	29
斜視	24
眼内レンズ脱臼・偏位	18
視神経炎	17
急性網膜壊死	8
原田病	7
眼球破裂	3
その他	97
合 計	2,216

#### 3-1) 手術術式別件数

入院手術	人数
白内障手術 (白内障手術のみ)	1,158
多焦点レンズ挿入術 (先進医療)	43
経強膜網膜剥離手術	19
硝子体手術 (白内障同時手術含む)	741
緑内障手術 (白内障・硝子体同時手術含む)	262
斜視手術 (小児・全麻)	24
角膜移植手術 (白内障同時手術含む)	6
眼球内容除去術・眼球摘出術	5
眼瞼内反症手術・眼瞼下垂症手術	16
その他	68
小 計	2,432

外来手術	人数
涙道手術	44
眼瞼手術（内反症、下垂症）	15
眼瞼手術（その他）	21
結膜（翼状片）	31
結膜（その他）	37
眼窩	1
角膜手術	41
斜視手術	110
虹彩・毛様体・隅角 手術	61
網膜レーザー光凝固	785
後発白内障手術	24
小 計	1,170
合 計	3,602

### 3-2) 術後合併症数

#### 4) 化学療法症例・数

該当なし

#### 5) 放射線療法症例・数

1

#### 6) その他の療法（免疫療法）症例・数

ベーチェット病 11例  
原田病 7例

#### 7) 悪性腫瘍の疾患別・臨床進行期別治療成績

該当なし

#### 8) 死亡症例・死因・剖検数・剖検率

該当なし

#### 9) 主な処置・検査

蛍光眼底造影、超音波画像診断装置、  
前眼部及び眼底光干渉断層計（OCT）  
超広角走査レーザー検眼鏡（OPTOS）  
スペキュラーマイクロスコープなど

#### 10) カンファランス症例

クリニカルカンファランス  
毎週火曜日午後5時30分より

## 4. 2020年の目標・事業計画等

大学病院の眼科の使命として、教育・研究・臨床の3つを行うことが要求されている。

教育は、学生教育のみならず、専門医を育てる必要がある。最新の医療技術を安全確実に提供できる眼科専門医を養成する。

医学や医療の発展のために、単に日常診療のみに流されることのないよう、常に新知見を得る努力を怠らないように心がける。

導入されている最新の医療機器を有効利用し、重症患者に対する質の高い医療を提供する。